

ILSI Japan 活動報告<85>

【部会・分科会活動報告】 2020年11,12月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>(1) 芽胞菌研究分科会 進捗なし</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 ・NITE-ILSI Japan 連携に基づく SuperSpectra 作成ノウハウ勉強会 (2020年11月) を実施 →Zoom による Web ミーティング方式で開催 (参加者 24 名) →MALDI-TOF MS を用いた微生物解析における疑問点や課題を共有して議論することでデータベース構築のポイントなどが整理され同定精度の向上に寄与した。 →次回 (第 2 回) の勉強会テーマを募集中。</p> <p>(3) チルド勉強会 ・低温増殖性セレウスグループに関する勉強会、活動に関する打合わせを実施 (11/19、Web 開催)。 ・ボツリヌス菌接種試験活動打合わせ実施。 (12/23、Web 開催、日缶協 山口先生にもご参加いただき試験案へのご助言をいただいた。) ・以下 2 つの活動案について参加企業を募集。 (耐熱性試験法検証 11 社、ボツリヌス菌接種試験 5 社の参加を予定)</p> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会 ・分科会ホームページの作成を発注。 ・ICMSF VIDEO 第 5、6 章の最終チェックが完了。</p>
	食品リスク研究部会	<p>・「"A Natural Mistake: Why natural, organic, and botanical products are not as safe as you think" (Dr. Jim MacGregor 著)」翻訳本の出版に向け、日本語題名・副題、裏表紙、背表紙及び章末の用語解説・参考情報とその引用許可、ILSI Japan 食品リスク研究部会としての「翻訳・出版に向けて」の記載内容について検討した。各項目について案を作成し、監訳者の林先生、森田先生の了解を頂くとともに、引用の許可を得た。</p> <p>・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」の報告書について 2021 年 5 月発行予定のイルシー誌への投稿を目指し、初案を作成、修正中。詳細について、次回部会で協議することとした。次回部会は 2021 年 1 月 20 日を予定。</p>
	香料研究部会	特に進捗なし。

A A T P ロ ジ エ ク ト	全体進捗	<p>① 国際 WS とシンポの同時開催と情報発信および ② 3 つの研究テーマ推進による評価戦略の構築と実装、を両輪とする活動を国立医薬品食品衛生研究所、AI-SHIPS、NITE 等の多数のアカデミアや学会およびアジアや EU の ILSI 支部と連携しながら進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会議を開催（12/7 Web）。各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、承認した。2021 年度の活動費用と会費について説明。会費納付について 12 月中に事務局より文書で連絡する。ILSI Japan ホームページでの活動説明資料、小島肇先生の講演会（前回報告）のフラッシュレポート概要について情報共有した。プロジェクトリーダーの交代（12/8 付）を承認した。 ・コアメンバー会議を開催し、国際 WS における海外演者の見直しやパネルディスカッションの方向性等について小島先生と議論し日本側最終案を確定させた。12 月に海外演者に参加及び講演依頼を打診した。
	2020 国際ワークショップ&シンポジウム WG (ILSI Europe 協働)	<p>【概要】食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として国際 WS を限定公開（AAT 関連メンバー等）にて、さらに国際シンポ（公開）を同会場で開催する。なお、延期した開催時期は 2021/10/21～22、会場は KFC ホール両国とした。</p> <p>【進捗】WG 定例会議を 11/5 と 12/9 に、また、北米の演者選定、WS Panel Discussion の進め方及び WS-Statement 具体化に関する Core member 会議を 11/24 に開催した。国際 WS 及びシンポの来年度予算について、会場、同時通訳、宿泊等の見積もりを再度取得・検証し報告した。論文投稿について投稿先編集部と論文の構成・文字数等を協議し概ね了解を得た。海外演者について、欧州は原則変更なしであることを確認、北米は FDA と EPA から各 1 名を選定し、参加及び講演依頼を打診した。さらに、Panel Discussion の進め方及び WS-Statement 具体化についても協議し、方向性等の日本側最終案をまとめた。</p>
	体内暴露予測 WG	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬科大学 山崎研究室の動態予測（<i>in silico</i>）モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】All <i>in silico</i>での予測は現状難しいことを踏まえ、腸管膜透過に関して <i>in vitro</i> 試験を組み込んだ評価フロー案を構築した。また、来年度の活動方針として、① 山崎研究室の動態予測（<i>in silico</i>）モデルの効果的活用と信頼性向上、② 予測性向上に向けた新規ツール活用、③ ケースレポート作成支援、を決定した。①②に関しては、WG 内に小チームを形成し、並行して活動することとした。</p>

データベース WG	<p>【概要】食品成分の既存毒性情報（文献等）を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】毒性予測を目的とした食品成分毒性試験情報のリスト化、データベースへの登録作業を進め、先行登録化合物 50 成分のリスト化、及び登録が完了した。NITE で開発された予測システム HESS を用いて、今回新たに構築した ILSI データベース（50 化合物）情報の追加による予測精度向上の検証を行った（2018 年に一度検証を行っておりデータベースの改善が必要であることを見出していた）。その結果、41 評価化合物中、13 化合物にて予測精度の向上が確認された。来年度 150 種の化合物情報の登録を予定しており、化合物選定に関する議論を開始した。</p>
ケースレポート WG	<p>【概要】NAMs を用いた食品成分の安全性評価戦略の具体化と実装の加速を目的に、体内暴露予測 WG とデータベース WG の活動を起点に、<i>in vitro assay</i>系を加えたリスク評価戦略の具体事例を作成し、ケースレポートとして発信する。</p> <p>【進捗】今期より WG 活動を開始。「肝障害」を第 1 弾のケーススタディのテーマに選定した。対象物質として、機能性表示食品成分では毒性が弱く、動物やヒトでの知見が限定的であることから、食品成分全般を対象として、動物とヒトにおいて肝障害の報告のある物質の調査を開始した。</p>
バイオテクノロジー研究会	<p>1. 12月14日に第6回目会議を開催（リモート会議）</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 54 号の勉強会：10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会長会議報告、および 2021 年活動予算申請審議経過 ・ILSI ERA 勉強会遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価に関する現状と展望 - 遺伝子組換え作物のデータトランスポートバリエーションについて - 「イルシー」誌掲載原稿進捗状況共有 <p>(3) 会計報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算進捗を確認した。

栄養健康研究会	栄養研究部会	<p>1. イルシー誌 No.145 (2021年2月発行) に事務局との協働で栄養研究部会の研究会トピックス (題目: 「栄養と健康」をテーマとした新たな活動の紹介) を寄稿 (10月下旬~11月初旬)</p> <p>2. 2020年度 研究会長・部会長 Web 会議 (Zoom) に参加 (11月10日、15:00~17:30)</p> <p>① 栄養研究部会の2020年度の活動内容について報告。</p> <p>② 2021年度の活動方針 (2021年 ILSI Japan 研究会・研究部会活動計画書・予算申請書 (活動の名称: 栄養と運動が免疫機能に及ぼす影響についての最新の情報の収集と発信) について報告。後日、本件は承認された。</p> <p>3. 2020年度 第5回目の部会を Web (Zoom) で開催 (11月16日、13:00~14:40) し、以下の方針で合意した。</p> <p>① 2021年度からは「栄養・運動と免疫機能」をテーマに Web 勉強会 (2021年3月、6月、9月、12月、2022年3月) を開催する。</p> <p>② 2022年7~9月に第10回「ライフサイエンスシンポジウム」を、2023年9月に第9回「栄養とエイジング」国際会議を開催することを目指す。</p> <p>4. 2021年からの Web 勉強会でご講演いただきたい先生方へのファーストコンタクトを事務局と協働で開始 (12月)。</p>
	GR プロジェクト	特に進捗なし。
	茶類研究部会・茶情報分科会	特に進捗なし。
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ~元気で長生きのための運動・栄養プログラム~</p> <p>・墨田区の介護予防事業「すみだテイクテン教室」(16年目) 各会場とも12月で全8回コース終了。</p> <p>11月4日、6日、10日、17日、18日、20日、12月1日、2日、4日、15日、16日、18日 (会場: 八広はなみずき高齢者支援総合センター、墨田区総合体育館、本所地域プラザ「BIG SHIP」)</p>
	Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト	<p>◇ 栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 委託事業</p> <p>・ミャンマープロジェクト: JICA との共同事業として推進。JICA、JICA の委託先コンサルタント会社、ILSI、中村学園大、ワールド産業で打ち合せを継続実施し (Web 会議)、試験計画概要について合意した。今後、ミャンマー側のパートナーである National Nutrition Centre の合意を得て、保健スポーツ省との Web 会議を実施し (1月予定)、倫理審査を申請する方向で準備を進める。(4月認可取得目標、5月試験立ち上げを目指す)</p> <p>・カンボジアプロジェクト: 富士通グループの新会社 Ridgelinez 株式会社 と ILSI との共同プロジェクトとして NJPPP の新たなプロジェクト (スマートフォンを使った栄養啓発システムの再検証) を実施することについて、12月2日 NJPPP 運営委員会 (Web 会議) で承認された。1月プロジェクト立ち上げ、3月終了予定。</p>
	CHP 全体	・CHP の活動について SDGs (Sustainable Development Goals) 実現のプラットフォームとしてより多くの企業に参加を求める方

		向での検討開始。2月の支部総会で提案することを目指す。																				
国際協力委員会		<p>1. BeSeTo 代替会議に向けた日本支部側の報告内容レビューを Web で実施 (11/19)。</p> <p>2. 日本支部がホストとして BeSeTo 代替会議 Web で開催 (12/2)。日本を含む全アジア 6 支部 80 名以上が参加。各支部より、COVID-19、法規改正及びリスク評価等に関する動向報告があった。時差を考慮し、午後 2 時から 4 時間の非常に内容の濃い会議であった。日本からは COVID-19 行政対応、食品添加物表示動向、ゲノム編集について報告した。</p>																				
食品機能性研究会	AI 栄養・機能性研究部会	<p>AI 栄養・機能性研究部会の研究活動を開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> AI 栄養機能プロジェクト：研究実務担当者会議 (11/13, 12/11 Zoom) では、健康長寿 AI (フレイル) 及び和食を研究テーマ事例に選定し、各テーマのテーマリーダーを選出した。月例会議 (11/27、12/25 Zoom) では、研究の方向性と会議の運営について議論をした。 AI ダイアトロフィ研究部門：研究会 (11/26、12/22 Zoom) で、代謝経路のイジングモデルの基本設計のため、ビタミン C を題材にイジングモデル化の検討結果について東北大学より報告された。 参加企業数：新たに 1 社の参加申し込みがあり、10 社となった。 募集活動：説明会に参加した企業に対し、メールで研究部会の近況の情報共有を行い、個別面談の希望があった 2 社と Zoom で情報交換を行った (11/24、11/26)。新たに、本講座に問い合わせのあった 1 社と Zoom で個別面談 (12/23) を実施した。 令和 3 年度の東北大学との共同研究申込書を締結した (12/25)。 																				
情報委員会		<p>●栄養学レビュー 全体スケジュール [「ヨ」：予定]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>編集会議</th> <th>翻訳締</th> <th>監修締</th> <th>発行</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ Vol.111 29-2</td> <td>8/11</td> <td>10/末</td> <td>11/末</td> <td>2/10 ヨ</td> </tr> <tr> <td>・ Vol.112 29-3</td> <td>11/13</td> <td>1/末ヨ</td> <td>2/末ヨ</td> <td>5/10 ヨ</td> </tr> <tr> <td>・ Vol.113 29-4</td> <td>2/12 ヨ</td> <td>4/末ヨ</td> <td>5/末ヨ</td> <td>8/10 ヨ</td> </tr> </tbody> </table> <p>●Vol.111 29-2<2021 年冬> 対象誌：Nutrition Reviews 78(5)-78(7) 編集会議：8/11 5 報採択 (OUP 承認 10/28) ⇒5 報とも翻訳原稿受領⇒監修依頼 ⇒12 月初旬 までに監修原稿受領 ⇒初校⇒再校⇒翻訳者 feed back ⇒1/6 再校時打合せ ⇒OUP 印刷原稿承認申請中 以下予定 色校正・OUP 取得⇒2/10 発行</p> <p>●Vol.112 29-3<2021 年春> 対象誌：Nutrition Reviews 78(8)-78(10) ⇒11/13 編集会議 4 報採択 (OUP 未承認) ⇒4 報とも翻訳者・監修者確定済み、翻訳進行中 (1 月末締切)</p> <p>●Vol.113 29-4<2021 年夏> 対象誌：Nutrition Reviews 78(11)-79(1) 対象誌は 3 号とも発行済み (対象論文数：20、要旨翻訳進行中)</p>		編集会議	翻訳締	監修締	発行	・ Vol.111 29-2	8/11	10/末	11/末	2/10 ヨ	・ Vol.112 29-3	11/13	1/末ヨ	2/末ヨ	5/10 ヨ	・ Vol.113 29-4	2/12 ヨ	4/末ヨ	5/末ヨ	8/10 ヨ
	編集会議	翻訳締	監修締	発行																		
・ Vol.111 29-2	8/11	10/末	11/末	2/10 ヨ																		
・ Vol.112 29-3	11/13	1/末ヨ	2/末ヨ	5/10 ヨ																		
・ Vol.113 29-4	2/12 ヨ	4/末ヨ	5/末ヨ	8/10 ヨ																		

	⇒2/12 編集会議にて採択論文決定予定 ●次回編集会議 2/12 (金) 16時～ (Web) 議題：通巻 113 号 (2021 年 8 月発刊予定) 掲載論文選定 対象誌：Nutrition Reviews 78(11)-79(1)
編集部会	・「イルシー」144 号発行 ・「イルシー」145 号編集

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第 6 回理事会が令和 2 年 12 月 18 日 (金) に開催された。</p> <p><決議事項></p> <p>2021 年収支予算案 2020 年の収支見込みと 2021 年収支予算案の説明が事務局よりあり、承認された。</p> <p><報告、討議事項></p> <p>1. ILSI Japan 創立 40 周年記念行事案 記念シンポジウムの開催時期について、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮して、東京オリンピック終了後の年後半に開催する案に変更した。</p> <p>2. ゲノム編集 NPO 法人日本消費者連盟より食品企業に対してゲノム編集食品の取扱いに関する公開質問状が 11 月 12 日付で出された旨報告。</p> <p>3. 第 8 回「栄養とエイジング」国際会議講演録：Nutrition Reviews 発刊 2019 年 10 月開催の「栄養とエイジング」国際会議の講演録が Nutrition Reviews Supplement の「free to view」として 12 月 8 日に発刊され、当国際会議の関係者に紹介した。</p> <p>4. アジア会議 「BeSeTo 会議」の代替として日本が主催し 12 月 2 日に各国の法規制のアップデート、リスク事象の紹介について Web 会議を開催した。</p> <p>5. ILSI 本部動向アップデート ○昨年 2 月の第 1 回 Assembly Meeting にて提案された議決案 5 項目のうち、「今後 10 年のビジョン、5-10 年の目的とゴール、1-3 年の戦略と評価を含む戦略的計画の立案」について、外部コンサルタントを採用して計画立案を遂行している。 ○上記戦略的計画の立案に関連して、ILSI Member Outreach Initiative を実施中。グローバルに ILSI 会員メンバー (産官学) にアプローチし、考えを聴取して ILSI の長期戦略の立案のためのインプットとする。 ○「栄養と免疫」という新型コロナに影響のあるテーマを挙げて ILSI Assembly の下、Research Working Group が取り組むことになった。偶然にも ILSI Japan の「栄養研究部会」が同じテーマで清水理事のご協力を得て今年勉強会を計画している。 ○2021 年度本部理事の選任があり、新たに 3 年任期 3 名、2 年任期 1 名、1 年任期 1 名が交代し、その候補が提示された。アジア 5 支部の代表は前任の味の素 (株) の木村氏から代わって、台湾の Jimmy Tsai 氏が候補として挙がっている。</p>
総会	

事務局	特になし。